

# Public Art

ヨコハマポートサイド地区はこんな街

## ■街のあちらこちらにある

パブリックアート

ヨコハマポートサイド地区の再開発時の

コンセプト「アート&デザインの街」ということで、当地区にはマンション・エントランスなどの空間にパブリック・アート作品が設置されています。



◀エットーレ・ソットサス  
「THE FAMILY」

ハンガリー生まれのイタリア人建築家・インダストリアルデザイナーが作ったエットーレ・ソットサス「THE FAMILY」作品の設置にあたって、氏は「このモニュメントから、誰もがノスタルジアを持つ、どこか懐かしい『家族とともにあった少年時代』を感じてもらえれば」と語っています。

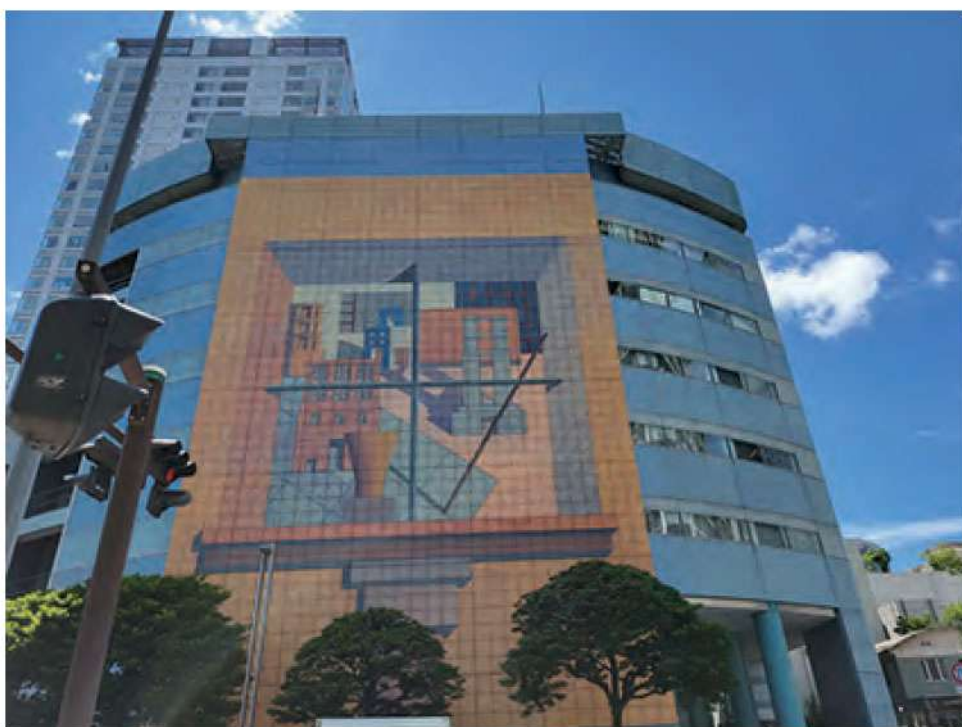
(E-2街区広場)

▶マイケル・グレブス  
「THE WINDOW」

現在「ソフトバンクテレコム 国際通信センター」の建物の壁面の「THE WINDOW」です。マイケル・グレブスというアメリカの建築家の作品です。

高さ28m、幅19mほどの大きなドローイング作品で、氏の作品を1500枚ほどのパーツに精密に分割し、それを忠実にタイルに焼き込んだもので、1枚のタイルは60cm×60cmほどの大きさになります。

(設置当時、この建物は IDC 横浜国際通信センター)  
(C-2街区)







◀マイケル・グレブス  
アルテ横浜

「アルテ横浜」(UR都市機構)もマイケル・グレブスにデザインアドバイスをもらって建築されたタワーマンションです。氏は建物のカラーについて「ブルー・グリーン」の色彩は、この建築物に日本の多くの現代建築とは異なる生き生きとした表情を与え、その立地であるウォーターフロントを象徴的に表現した」と語っています。

(D-2街区)

エドガー・ホーネットシュレイガー▶  
「シューベルク・プロジェクト」

石膏ボードに人の足跡を残し、そこに蜜蝋が流し込んであり、ほぼ正方形のプレートを連続させ、壁一面に貼り付けた作品です。エドガー・ホーネット・シュレイガーはオーストリア出身の映画監督です。人の足跡が再開発事業によってリニューアルされていく、「過去」と「現在」とを結ぶ「記憶」を時間の流れの中で未来に伝えていくという作品です。

(E-2街区ロア壱番館エントラスロビー 一般公開されていません)



◀岡本敦生  
「地殻から」

岡本敦生は広島県出身の彫刻家。ギャラリーロードにある「地殻から」は旧三菱重工横浜船渠第2号ドッグが解体されたときの石材で作られたものです。ギャラリーロード沿いを中心にポラード(車止め)としての役割も果たしています。





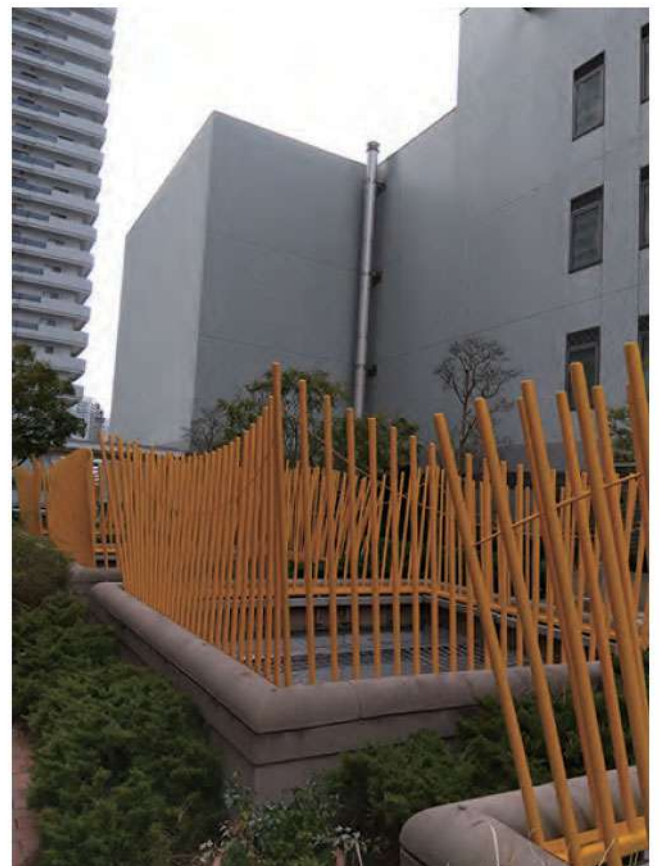
■ ザ・ヨコハマタワーズの  
パブリック・アート

ザ・ヨコハマタワーズには、この建物の  
開発にあたったヨコハマポートサイドF-1街

区再開発組合により、この街の開発コンセ  
プトである「アート&デザインの街づくり」  
に基づき、数多くのパブリック・アートの  
作品があります。



◀ 岡本敦生  
「dockyard- 記憶体積」



高田洋一 ▶  
「梳る時間～君の頬をなぜる風～」



◀ AZUMI (安積伸・安積朋子)  
「風の道」



畠山耕治 ▶  
「まるい言葉」





◀ステファノ・ジョバンノーニ  
「Marrakesh」または「design  
supermarket」  
(どちらかは不明)

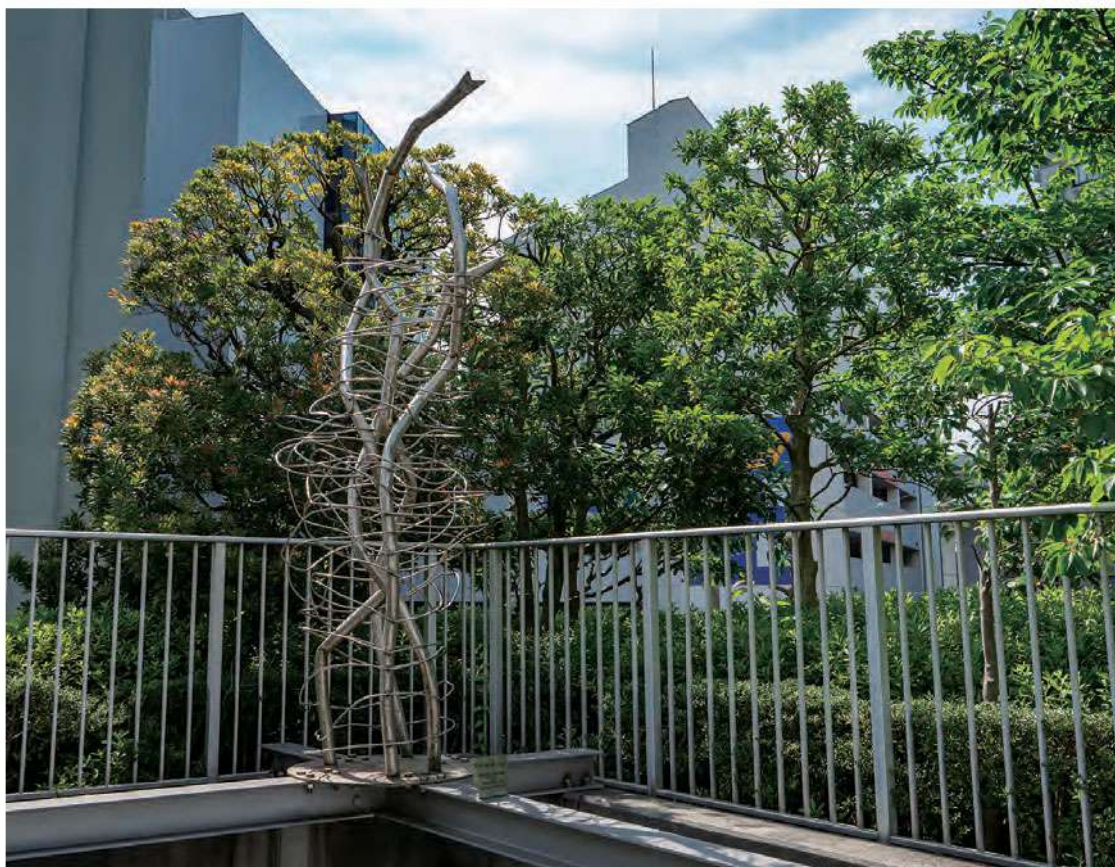


ナデーム・カラム ▶  
「Egg of the world」





◀スナデイルム・カラム  
「Couple & Dog」



◀ナデイルム・カラム  
「Bird out of cage」



## ■横浜ポートサイドプレイスの パブリック・アート

横浜ポートサイドプレイスのパブリック・アートは「まちをもっと楽しむためのアート～親しみのあるコミュニティのために～」

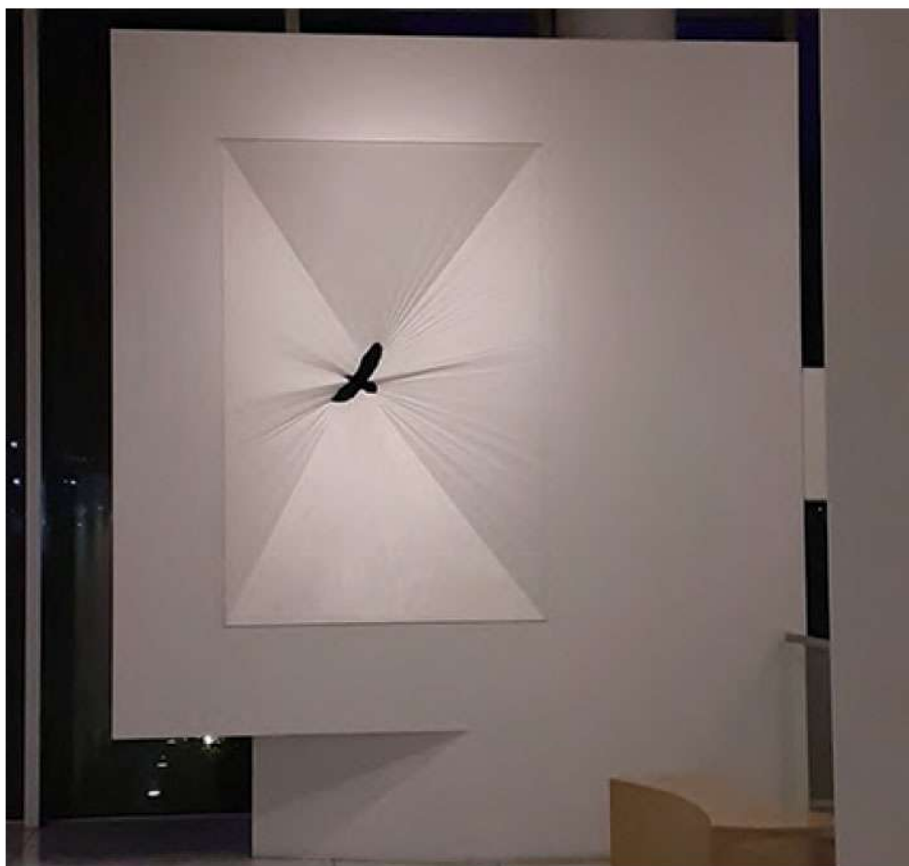
をコンセプトとしています。対象から「使って、感じて、参加できる」を基本として「遊び」を取り入れています。いくつかの作品にはこの街に暮らす人々の共同作業によって作られているものもあります。



◀ ジョセップ・マリア・マルティン  
「コミュニティ・ツリー」  
1F 南側外構



長谷川 仁 ▶  
「モバイル」 3F 保育所全室



◀ 袴田京太郎  
「ヴェセル (1)(2)」  
1F エントランスロビー



袴田京太郎 ▶  
「バード バレー」  
1F エントランスロビー





◀長谷川 仁  
4F「素敵発見マップ」



長谷川 仁▶  
3F「ふきだしサイン」



◀長谷川 仁  
「保育所デザイン家具」  
3F 保育所全室



長谷川 仁▶  
「あしあと迷路」  
外構コロネード床面

(長谷川氏は横浜ポートサイドプレイスのファサードもデザイン)

※一般に鑑賞可能な場所に設置されている作品もありますが、そのすべてが「住宅の庭」とも言える場所に設置されています。  
鑑賞する場合は充分ご配慮ください。